

「神の好意を得る人」

主任牧師：重田 稔仁

<創世記 6章 1～10節 新共同訳>

-洪水-

さて、地上に人が増え始め、娘たちが生まれた。

神の子らは、人の娘たちが美しいのを見て、おのおの選んだものを妻にした。主は言われた。「わたしの霊は人の中に永久にとどまるべきではない。人は肉にすぎないのだから。」こうして、人の一生は百二十年となった。当時もその後も、地上にはネフィリムがいた。これは、神の子らが人の娘たちのところに入って産ませた者であり、大昔の名高い英雄たちであった。主は、地上に人の悪が増し、常に悪いことばかりを心に思い計っているのを御覧になって、地上に人を造ったことを後悔し、心を痛められた。

主は言われた。「わたしは人を創造したが、これを地上からぬぐい去ろう。人だけでなく、家畜も這うものも空の鳥も。わたしはこれらを造ったことを後悔する。」

しかし、ノアは主の好意を得た。これはノアの物語である。その世代の中で、ノアは神に従う無垢な人であった。ノアは神と共に歩んだ。ノアには三人の息子、セム、ハム、ヤフェトが生まれた。

<メッセージ>

ヨハネによる福音書 3:8

「風は思いのままに吹く。あなたはその音を聞いても、それがどこから来て、どこへ行くかを知らない。霊から生まれた者も皆そのとおりである。」

今、朗読した言葉は、夜中にイエス様を訪ねてきたユダヤ人の有力者ニコデモとイエス様の<神の働きと神の国>についての対話の一節ですが、この文言から神はご自身の好みに任せて私たちを祝福する！とのメッセージを以前、聞いたことがあります。その時、驚き半分、疑い半分、そうメッセージした人が有名な牧師なので、なんとなく圧倒されて受け入れた自分がいました。しかし今になって、ほんとかな…と気になっていたところに創世記6章の記事に出会いました。

創世記 6 章 8 節に「ノアは神の好意を得た。」そして彼と彼の家族は神の好意によって地上の罪悪を裁く神が引き起こした洪水を免れたと解釈できるような一文があります。

果たして神は人を選び好みなさるのか。結論から申し上げますと、聖書はそう教えていません。

ではノアが主の前に好意を得たとはどういうことか、私たちは神の好意をどう受け止めたら良いか。今朝はこの問いについて聖書を紐解きながら考えてみたいと思います。

朗読 創世記 6:1~10

創世記 6:8 しかし、ノアは主の好意を得た。

【改訳改訂 3】しかし、ノアは主の心にかなっていた。

【口語訳】しかし、ノアは主の前に恵みを得た。

【新共同訳】しかし、ノアは主の好意を得た。

【NKJV】 But Noah found grace in the eyes of the Lord.

【NIV】 But Noah found favor in the eyes of the LORD.

創世記 6:8 のヘブル語の原文を直訳すると、(ノアが主語)ノアは主の目に恵みを見出したと訳せます。

これと同じような聖句が、ギリシャ語原語の新約聖書ルカ 1:28 にあります。

「あなた、(マリア)は主の恵みを見出した」

このことを、念頭においてこれからお話しすることを聞いていただきたいのですが。

何故ノアは、主の恵みを得たのか？

主の目に恵みを見出したのか？

それは、ノアが「神に従う無垢な人」完全な正しい人だったから。。。創世記 6:9 ももちろんそう理解するのは自然です。

しかしそれ以上に“ノアが主の恵みを得た理由、ノアが主の目に恵みを見出した理由”、それはノアが神と共に歩んでいたからです。創世記 6:5

地上に悪が蔓延っていたとき、ノアは他の人々のようにその心を悪に傾けませんでした。それは、ノアが神と共に歩んでいたからです。

ここで言われている「歩む」という言葉は、原語(ヘブライ語)では「従う、信頼する、会話する、交わりをもつ」という意味になります。ノアは神と交わりを持っていたんです。つまりノアは神と personal な関係にあったのです。

では、personal な関係とは、どのような関係でしょうか。それは<神はノアを知り、ノアも神を知っていた>そんな関係です。イエス様がこの personal な関係について、こうおっしゃっています。

「わたしは良い羊飼いである。わたしは自分の羊を知っており、羊もわたしを知っている。それは、父がわたしを知っておられ、わたしが父を知っているのと同じである。わたしは羊のために命を捨てる。」

ヨハネ福音書 10:14-15 新共同訳

神とノアの personal な関係について、もっと噛み砕いて言うと…。

ノアは地上に蔓延る悪をご覧になって神が心がその心を痛め、悲しんでおられるのを知っていた。そして神もノアが同胞の心が悪に染まっているのを見て苦悩しているのを知っていたということなのです。

そんなノアが主の目に見出した恵みとは何だったのでしょうか。

この問いに答える前に、ちょっと話が脇道にそれますが。

ノアのお父さんの名前はレメク、おじいさんの名前はメトシェラ、ひいお爺さんの名前はエノクです。当然のことながらノアのお父さんにメトシェラという名を付けたのはエノクです。

メトシェラは 969 年生きたと創世記 5:27 にありますが、メトシェラという名前の意味は、「死」という意味の単語と「送る」という意味の単語の合成語です。それは彼の死後送るという意味です。メトシェラの死後、神が送る?!何を！怖いですね。

メトシェラの孫がノア。メトシェラが死んだ年すなわちノアが 600 歳のとき洪水が起きました。とするとですよ。ノアのひいお爺さんのエノクは息子メトシェラの死後、神が人間の罪悪を裁くため洪水を送る！とその子の名を通じて預言したのでしょうか。

当初、私はそう理解しました。

しかし、創世記 6 章を何度も読み返すうちに違う理解に至りました。

それは、エノクは、ノアと同じように神と共に歩んだ人物です。エノクは神の御心を知っていた人です。すなわちエノクは、神が地上に悪が蔓延っていくのを見て、人間を造られたことを悔いて、その心が悲しみと痛みで満ちているのを知っ

ていました。だから、息子にメトシェラという名前を付けて、彼の家族と周囲の人々に神の裁きを警告し、メトシェラが死んだ年に大洪水が起きたのですが。同時にエノクは、洪水を計画した神の恵みを知っていたのです。それは、神が洪水後に神と人類との関係を回復なさることを。

何故、このような理解に至ったか。

神様が地上に蔓延る人間の罪悪をご覧になって、決意したことは人間を滅ぼそうとしたことではなく、永遠に愛することだったのです。エノク同様に神と共に歩んでいたノアは曾祖父さんと同じように神さまの憐みを知っていたのです。これが、ノアが主の目に見出した恵みです。

神様は、私たち人類への永遠の愛を証しするために洪水後に天と地の架け橋として虹を置きました。さらに人間の罪を完全に拭い去るために神の独り子による罪の贖いを準備なさいました。

だとすると、ノアの物語が私たちに伝えていることは何か?!
それは、私たちはみなノアのように神との personal な関係に招かれているということです。

この朝、皆さんの中に神との関係に生きる喜び、感動を感じられない方がおられるでしょうか。コロナウィルスで不安と不信と絶望感が覆いつつある、私たちの世界ですが、ノアのように神と personal な関係に生き、神と共に歩むなら私たちは、主なる神の目に恵みを見出し、平安と希望、勇気が満たされる！と聖書は約束しています。

だとしたらこの恵みを私たちも見いだせていただきませんか。
なぜなら、主なる神の目に神の恵みを見出す人こそ、神の好意に預かる人だからです！

共に祈りましょう！